

中村陽一教授の業績リスト

List of Works by Professor Yoichi Nakamura

職 歴

- 1980年 4月 株式会社新評論（編集部）入社（～1982年2月）
- 1986年 4月 日本生活協同組合連合会（組織指導本部出版部）入職（～1989年6月）
- 1989年 6月 消費社会研究センター設立、代表就任（～1996年3月）
- 1991年 4月 都留文科大学非常勤講師（～1996年3月）
一橋大学非常勤講師（～1994年3月、1997年4月～2000年3月）
- 1993年 4月 新潟大学非常勤講師（～1994年3月）
- 1994年 4月 千葉大学非常勤講師（～1996年3月）
- 1995年 4月 武蔵大学非常勤講師（～1997年3月、1998年4月～2002年3月、2009年4月～2010年3月）
- 1996年 4月 都留文科大学文学部社会学科助教授（～2000年9月）
- 2000年 4月 東京大学社会情報研究所客員助教授（～2001年3月）
明治学院大学非常勤講師（～2003年3月）
早稲田大学非常勤講師（～2002年3月）
- 2000年 10月 都留文科大学文学部社会学科教授（～2002年3月）
- 2002年 4月 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科、法学部法学科教授（～現在に至る）
- 2010年 4月 立教大学 21 世紀社会デザイン研究科委員長（～2012年3月、2014年4月～2018年3月）
立教大学独立研究科運営部長（～2012年3月、2016年4月～2018年3月）
立教大学社会デザイン研究所所長（～現在に至る）
- 2015年 4月 日本女子大学家政学部家政経済学科非常勤講師（～2017年3月）
- 2019年 4月 立教大学セカンドステージ大学副運営委員長（～2020年3月31日）
陸前高田グローバルキャンパス運営機構役員（～現在に至る）
- 2020年 4月 青森中央学院大学客員教授（～現在に至る）
- 2021年 4月 神奈川大学国際経営研究所客員研究員（～現在に至る）

学会ならびに社会における活動

- 日本 NPO 学会発起人・元理事
社会デザイン学会副会長（2022年4月～会長）
元・日本ボランティア学会副代表
その他所属学会：日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会、日本協同組合学会、日本広報学会等

* 80年代半ばより現場と往復しつつ市民活動・NPO/NGO の実践的研究、基盤整備、政策提言に取り組む。

中村陽一教授の業績リスト

- * また、民間と経済産業省とのパートナーシップ型組織「ソーシャルビジネス推進イニシアティブ」座長を務めた後、民間経済団体ソーシャルビジネス・ネットワーク常任顧問、(経済同友会などと協働する)社会イノベーター公志園実行委員などSB/CB推進に精力的に取り組んでいる。
- * 2019年12月、社会デザイン研究所と(株)JSOLとの包括的連携協定にもとづき設立された社会デザイン・ビジネスラボ会長に就任。
- * 地域連携や民学産官協働によるまちづくり、コミュニティデザイン、社会デザイン、CSRの専門家でもある。
- * 現在、NPO法人市民社会創造ファンド理事、公益財団法人パブリックリソース財団評議員、東京芸術劇場運営委員(人材育成・教育普及担当)、「座・高円寺」劇場創造アカデミー講師、日本シティズンシップ教育フォーラムアドバイザー。
- * ニッポン放送「おしゃべりラボ〜しあわせ Social Design」パーソナリティ。
- * 2017年2月「名誉唎酒師酒匠」を受章。
- * また、NPO法人さいたまNPOセンター前代表理事(4期8年)、公益社団法人企業メセナ協議会「This is MECENAT」審査委員、同「メセナアワード」審査委員などを務めた。
- * 演劇プロデュース作品に『タバタバ』(ベルナール=マリ・コルテス作、川口智子演出、2016年12月上演、2018年6月再演)。
- * 伊勢崎賢治・東京外国語大学教授のジャズライブにリーディング(キング牧師“I have a dream”)で度々出演。

著書

- 『日本のNPO/2000』中村陽一+日本NPOセンター編(1999年、日本評論社)
- 『アンペイド・ワークとは何か』川崎賢子・中村陽一編著(2000年、藤原書店)
- 『日本のNPO/2001』中村陽一+日本NPOセンター編(2001年、日本評論社)
- 『21世紀型生協論』中村陽一+21世紀コープ研究センター編著(2004年、日本評論社)
- 『新しい空間と社会のデザインがわかるビルディングタイプ学入門』中村陽一・高宮知数・五十嵐太郎・槻橋修編著(2020年、誠文堂新光社)

論文等

- 「イリイチの現代産業社会批判とフェミニズム—シャドウ・ワーク論を中心に」1986、社会主義理論フォーラム編『挑戦するフェミニズム』社会評論社、pp.126-140
- 「家族の風景Ⅰ」、「家族の風景Ⅱ」、「家族を考えるための本・映画・テレビドラマ」1988、金井淑子編『ワードマップ家族』新曜社、pp.90-95、96-101、206-215
- 「現代日本のインターフェイス」1989-91、『社会運動』110号-141号(随時連載)、社会運動研究センター
- 「家族を“ひらく”ために—家族幻想と消費社会 上・下」1990、『月刊 社会教育』国土社、34(3) pp.6-9、34(5) pp.72-76
- 「男性文化を越えて—消費社会とフェミニズム」1990、金井淑子・加納実紀代編『わたしの視線』社会評論社
- 「さくら・市民ネットにのっての清田選挙」1990、『社会運動』122号、社会運動研究センター
- 「地域の女性と政治—その意味と可能性」1990、『「女の時代」を旅する—フェミニズム1990』ユック舎
- 「80年代消費社会の動向と私たちの課題」1990、『生活協同組合研究』1990年8月号、日本生活協同組合連合会
- 「保谷ネットの運動の意味の再発見」1990、『社会運動』127号、社会運動研究センター

- 「消費社会における〈転向〉問題の意味と可能性」1990、『思想の科学』134号、思想の科学社、pp.13-19
- 「月例研修会が「生き生き人生」をつくる—福岡県福岡吉井町農協」1990、『農業協同組合』36(12)、全国農業協同組合中央会、pp.27-32
- 「企業・行政とのパートナーシップ形成を進める欧米の市民活動—グラウンドワークとパートナーシップ・フォー・デモクラシー」1991、『社会運動』138号、社会運動研究センター
- 「新たな展開を見せる協同組合運動」1991、『協同組合経営研究月報』458号、(財)協同組合経営研究所
- 「ポスト・フォードイズムと新しい社会運動」1991、山田鋭夫・須藤修編『ポストフォードイズム—レギュレーション・アプローチと日本』大村書店
- 「生協だけじゃものたりない」1991-93、『こーぷらいふ』65号-88号(連載)、コープ出版
- 「地域から社会が変わる—内発的発展と複合的ネットワーク」1992、『社会運動』142号、社会運動研究センター
- 「地域から社会が変わる—生活の場からの『地殻変動』」1992、『社会運動』143号、社会運動研究センター
- 「生協運動とフェミニズムの『対話』」1992、東京都生協連国際活動委員会事務局編『生協と女性・政治—東京都生協連「協同組合の基本的価値」連続討論会の記録(3)』コープ出版
- 「1800時間労働時代における地域社会活動の可能性—ワーカーズ・コレクティブを事例に」1995、『1800時間労働時代における労働と余暇に関する総合研究』財団法人余暇開発センター
- 「成熟した市民社会へ向けての非営利市民セクター形成と生協」1995、『第4回「生活協同組合研究奨励助成」研究報告論文集』財団法人生協総合研究所
- 「日本におけるボランタリー活動の現状と課題」(渡辺元との共著)1995、『ボランタリー活動推進のための仕組づくりに関する調査研究』日本ネットワークーズ会議
- 「特論 有償事業型市民公益団体の特性—ヒアリング結果を参考としつつ」1996、経済企画庁委託調査『平成7年度「市民公益団体の実態把握調査」委託調査結果報告書』株式会社住信基礎研究所
- 「都市の生活者ネットワーク」1996、『都市と都市化の社会学』岩波講座・現代社会学 第18巻、岩波書店、pp.75-90
- 「ボランタリーな市民活動の非営利組織」1997、富沢賢治・川口清史編『非営利・協同セクターの理論と現実—参加型社会システムを求めて』日本経済評論社
- 「ボランタリーな市民活動と新しい地域づくりの可能性—『NPOと内発的発展』序説」1998、都留文科大学社会学科編著『地域を考える大学—現場からの視点』日本評論社、pp.115-129
- 「アメリカ消費者運動のニューウェーブとしてのNPOに学ぶ」2000、山岸秀雄編『アメリカのNPO—日本社会へのメッセージ』第一書林、pp.186-197
- 「NPOをめぐる調査研究の動向と今後の課題」2002、パブリックリソース研究会編『パブリックリソース・ハンドブッカー—市民社会を拓く資源ガイド』ぎょうせい、pp.82-90
- 「NPO/NGOの役割—社会をデザインするために「正しさ」と「楽しさ」をつなぐ」2008、『環境会議』30号、宣伝会議、pp.92-97
- 「社会デザインのために求められるNPO/NGOの社会的役割と力」2008、『生活経済政策』143号、生活経済政策研究所、pp.3-7
- 「CSRを考える—まだ遅くはない 改めて社会デザインとしてのCSR」2009、『エコノミスト』87(17)、毎日新聞社、pp.92-93
- 「古くて新しいソーシャルビジネス—社会を変える力に」2009、『月刊ボランティア情報』2009年4月号、全国社会福祉協議会
- 「ソーシャルビジネスと社会的企業」2009、『社会運動』355号、市民セクター政策機構、pp.38-49

- 「ソーシャルビジネスの可能性」2009、『地域づくり』2009年12月号、一般社団法人地域活性化センター
- 「社会デザインへ向けてのNPO/NGOの社会的役割とカーその現実と将来」2010、『公衆衛生』74(3)、医学書院、pp.199-202
- 「ソーシャルビジネスを社会デザインの新しい力に」2010、『月刊自治フォーラム』613号、第一法規、pp.13-19
- 「日本における社会的企業の現状と可能性—「社会デザイン」の新しい力に」2010、『世界の労働』60(10)、日本ILO協会、pp.44-53
- 「「生活者」のための社会デザイン—社会・地域・政治」2011、三浦展・藤村龍至編著『3・11後の建築と社会デザイン』平凡社
- 「コミュニティ・デザインの歴史—コミュニティ・デザインの誕生から、世界を変えるソーシャルデザインへ」2012、『クリエイティブ・コミュニティ・デザイン』フィルムアート社、pp.204-211
- 「社会デザインとしてのソーシャルビジネス：つながりを編み直すワーク、活かすワーク」2013、『ソーシャルワーク研究』39(1)、相川書房、pp.38-45
- 「社会デザインからみた図書館—つながりを編み直すワーク、活かすワーク」2014、『情報の科学と技術』第64巻10号、一般社団法人 情報科学技術協会
- 「社会デザインからみた公共ホール」2015、『公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ2014』立教大学社会デザイン研究所
- 「岩根邦雄—「おおぜいの私」による社会運動」2016、杉田敦編『ひとびとの精神史 第6巻 日本列島改造 1970年代』岩波書店、pp.159-185
- 「市民活動と「政治活動」：さいたま市市民活動サポートセンター直営化条例問題の意味と本質的課題」2016、『地方自治職員研修』49(2)、公職研
- 「社会デザインの20年」2016、『公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ2015』立教大学社会デザイン研究所、pp.6-20
- 「社会デザインと公共ホール・劇場」2016、『公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ LECTURES』立教大学社会デザイン研究所
- 「社会運動論へのはいり方」(大畑裕嗣との共著)2017、『明治大学心理社会学研究』第13号、明治大学
- 「地域とともに手ごたえある仕事をする存在をめざして：社会デザインからみた「これからの自治体職員」が実践する〈関係性を活かすワーク、編み直すワーク〉」2019、『Think-Ing：彩の国さいたま人づくり広域連合政策情報誌』(20)、彩の国さいたま人づくり広域連合、pp.27-34